

経済学委員会数量的経済・政策分析分科会（第26期・第4回）

議 事 要 旨

1. 会議名 経済学委員会数量的経済・政策分析分科会（第26期・第4回）
2. 日 時 令和7年5月25日（日）12時00分～13時00分
3. 会 場 中京大学名古屋キャンパス0号館(センタービル)8階0809教室及びオンライン会議システム併用のハイブリッド開催
4. 出席者 臼井 恵美子、西山 慶彦、岩城 秀樹、宇南山 卓、大森 裕浩、川崎 能典、北尾 早霧、小原 美紀、西郷 浩、塩路 悦朗、高槻 泰郎、豊田 哲也、中村 さやか、早川 和彦、福重 元嗣、福元 健太郎、松尾 美和、宮川 努、(18名)
5. 議 題：
 - (1) チュートリアルセッションの開催について
 - (2) 政策ニーズのヒアリングについて
 - (3) その他

議事録

- (1) チュートリアルセッションの開催について

2026年度日本経済学会春季大会もしくは秋季大会において、チュートリアルセッションを開催するための人選を進めた。政治経済分野の研究者に報告の打診をしたところ内諾が得られたとの報告があった。分科会として審議し、当該研究者に正式に依頼することが決定された。また、今後はセッションを進行する座長を選定することが決定された。

なお、春季大会と秋季大会のどちらで開催するか、報告時間を2時間とするか90分とするかは発表者に検討をお願いすることとした。旅費については、日本学術会議から支出が可能かを確認することを合意した。

2027年度のチュートリアルセッションのテーマとして、計量分析におけるAIの使用、政策評価分析に役立つ日本の制度や制度変更の概要、計量経済学の理論

と応用の接点、ネットワークデータの分析、数量的経済史、等の案が出された。

（２） 政策ニーズのヒアリングについて

冒頭に委員長から、現在の課題として、政策ニーズを把握しそれに対する学術会議からの報告・見解・提言を発出するための仕組み作りが必要であることが指摘された。それに対して、研究者や学術会議の議論のスピードを速めていく必要性や、官僚が自由に個人的な意見を表明できる環境の重要性が指摘された。また、学術会議の仕組みを生かし研究者からの多様な意見に対して官僚にレスポンスを強く要請することや、役所において基本計画は決定的に重要なので、個別の細かい問題ではなく基本計画について官僚と意見交換することが有益ではないかという指摘もなされた。この問題は非常に難しいが非常に重要なため、今後も話し合いを続けていくことが合意された。

（３） その他

2025年日経学会秋季大会においても本分科会をハイブリッド形式で開催することが合意された。